

教養教育「日本語」「日本事情」報告 (2009年4月～2010年3月)

加藤扶久美

1 はじめに

富山大学の学部教養教育は、2005年に富山大学（五福キャンパス）、富山医科薬科大学（杉谷キャンパス）および高岡短期大学（高岡キャンパス）を再編・統合してからも、各キャンパスで旧実施体制を引き継いで実施されている。本稿では五福キャンパスにおいて、学部正規留学生を対象として開講されている教養教育「日本語」「日本事情」について報告する。

五福キャンパスの教養教育では、外国語科目として「日本語 A」「日本語 B」を、総合科目として「日本事情 I」「日本事情 II」「日本事情 III」を開講している。以下に、2009年度の教養教育「日本語」「日本事情」の実施状況について報告する。

2 「日本語」

「日本語 A」は学部正規留学生1年生を対象とした科目で、前学期に「日本語 A1」を、後学期に「日本語 A2」を開講している。「日本語 B」は、2年生以上の学部正規留学生と各学部から受講申請願いの出された聴講生、科目等履修生を対象とした科目で、前学期に「日本語 B3」を、後学期に「日本語 B4」を開講している。

授業では中・上級用の日本語教材、視聴覚教材、新聞や雑誌の記事を使って、四技能（聞く、話す、読む、書く）の面でバランスのとれた日本語能力の養成と、大学での学習や研究活動に十分な日本語能力の養成を目的としている。主に文法・作文中心の授業と読解・聴解中心の授業がある。

2.1 2009年度の実施状況

前学期は、文系クラス（人文学部・人間発達科学部・経済学部対象）の「日本語 A1」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、理系クラス（理学部・工学部対象）の「日本語 A1」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、合計4コマ開講した。「日本語 B3」は、主に経済学部の留学生を対象として月曜日3時限に1コマ、主に人文学部の留学生を対象として火曜日4時限に1コマ、全学部留学生を対象として水曜日4時限に1コマ、主に工学部の留学生を対象として金曜日2時限に1コマ、合計4コマ開講した。

後学期は、文系クラス（人文学部・人間発達科学部・経済学部対象）の「日本語 A2」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、理系クラス（理学部・工学部対象）の「日本語 A2」を火曜日3時限と金曜日2時限に各1コマ、合計4コマ開講した。「日本語 B4」は、主に経済学部の留学生を対象として月曜日3時限に1コマ、全学部留学生を対象として火曜日1時限と水曜日4時限に各1コマ、合計3コマ開講した。

2.2 授業科目及び授業担当者

前学期は、「日本語 A1」をセンター専任教員4人（出原節子、加藤扶久美、後藤寛樹、副島健治）が担当し、「日本語 B3」を学部留学生専門教育教員3人（人文学部；山崎けい子、経済学部；村上剣十郎、工学部；宮武滝太）及び非常勤講師1人（横掘慶子）が担当した。

後学期は、「日本語 A2」をセンター専任教員2人（後藤寛樹、副島健治）、学部留学生専門教育教員2人（人文学部；山崎けい子、工学部；宮武滝太）が担当し、「日本語 B4」をセンター専任教員1人（濱

田美和), 経済学部留学生専門教育教員 1 人 (村上剣十郎) 及び非常勤講師 1 人 (横掘慶子) が担当した。

2.3 受講者

前学期の受講者は、「日本語 A1」が 26 人であり、「日本語 B3」が月曜日 3 時限に 0 人, 火曜日 4 時限に 8 人, 水曜日 4 時限に 10 人, 金曜日 2 時限に 0 人であった。

所属別の内訳は、「日本語 A1」が人文学部 5 人, 人間発達科学部 1 人, 経済学部 4 人, 理学部 1 人, 工学部 15 人であり, 火曜日 4 時限の「日本語 B3」が人文学部聴講生 6 人, 人文学部科目等履修生 1 人, 人間発達科学部聴講生 1 人であり, 水曜日 4 時限の「日本語 B3」が経済学部 2 年生 1 人, 人文学部聴講生 5 人, 人文学部科目等履修生 3 人, 人間発達科学部聴講生 1 人である。

国・地域別の内訳は、「日本語 A1」が中国 16 人, マレーシア 9 人, ベトナム 1 人であり, 火曜日 4 時限の「日本語 B3」が韓国 4 人, 中国 3 人, ロシア 1 人であり, 水曜日 4 時限の「日本語 B3」が韓国 3 人, 中国 3 人, ロシア 2 人, アメリカ 1 人, ベトナム 1 人である。

後学期の受講者は、「日本語 A2」が 26 人であり、「日本語 B4」が火曜日 1 時限に 10 人, 水曜日 4 時限に 8 人であった。

所属別の内訳は、「日本語 A2」が人文学部 5 人, 人間発達科学部 1 人, 経済学部 4 人, 理学部 1 人, 工学部 15 人であり, 火曜日 1 時限の「日本語 B4」が人文学部聴講生 5 人, 人文学部科目等履修生 3 人, 人間発達科学部聴講生 2 人であり, 水曜日 4 時限の「日本語 B4」が工学部 3 年生 1 人, 人文学部科目等履修生 4 人, 人文学部聴講生 3 人である。

また, 国・地域別の内訳は、「日本語 A2」が中国 16 人, マレーシア 9 人, ベトナム 1 人であり, 火曜日 1 時限の「日本語 B4」が韓国 5 人, 中国 4 人, ロシア 1 人であり, 水曜日 4 時限の「日本語 B4」が中国 5 人, ミャンマー 2 人, インドネシア 1 人である。

3 「日本事情」

「日本事情」は学部正規留学生を対象とした科目で, 1 年生後学期 (第 2 期) に「日本事情 I」を, 2 年生前学期 (第 3 期) に「日本事情 II」を, 2 年生後学期 (第 4 期) に「日本事情 III」を開講している。3 科目とも, 留学生センターの専任教員がコーディネートしている。

「日本事情 I」では, 日本の文化や芸術についての理解を深めるとともに, 母国の文化を客観的に見る目を養うこと, 「日本事情 II」では, 日本の自然, 産業, 社会, 文化等についての理解を深め, 日本と母国との比較ができるようになること, 「日本事情 III」では, 日本という「異文化」を理解し, 異文化への対処の仕方を身につけ, さらに「異文化」を通して自文化への理解を深めることを目標としている。

3.1 2009 年度の実施状況

2009 年度前学期は, 「日本事情 II」を木曜日 2 時限に, 後学期は, 「日本事情 I」を火曜日 5 時限に, 「日本事情 III」を木曜日 5 時限に開講した。

2009 年度に 2 年生となった学生は, 前学期開講の「日本事情 II」と後学期開講の「日本事情 III」を受けることになる。また, 1 年生の学生は後学期開講の「日本事情 I」を初めて受けることになる。

3.2 受講者

「日本事情 I」の受講者は 36 人であった。所属別の内訳は, 人文学部 1 年生 5 人, 人間発達科学部 1 年生 1 人, 経済学部 1 年生 3 人, 工学部 1 年生 14 人, 工学部 3 年生 1 人, 人文学部聴講生 5 人, 人文学部科目等履修生 5 人, 人間発達科学部聴講生 2 人である。また, 国・地域別の内訳は, 中国 18 人, マレーシア 9 人, 韓国 5 人, ミャンマー 2 人, ベトナム 1 人, インドネシア 1 人である。

「日本事情 II」の受講者は 35 人であった。所属別の内訳は, 人文学部 2 年生 7 人, 経済学部 2 年生 5

人、経済学部4年生1人、工学部2年生11人、生命融合科学教育部博士課程2年生1人、人文学部聴講生6人、人文学部科目等履修生3人、人間発達科学部聴講生1人である。また、国・地域別の内訳は、中国17人、マレーシア9人、韓国4人、ロシア2人、ベトナム2人、アメリカ1人である。

「日本事情Ⅲ」の受講者は29人であった。所属別の内訳は、人文学部2年生7人、経済学部2年生4人、工学部2年生11人、工学部3年生2人、人文学部科目等履修生4人、人文学部聴講生1人である。また、国・地域別の内訳は、中国13人、マレーシア11人、ベトナム2人、韓国1人、ロシア1人、インドネシア1人である。

3.3 コーディネーターと授業担当者

前学期は、「日本事情Ⅱ」のコーディネーターを加藤扶久美が担当し、学部教員8人（青地正史、石原外美、黒田重靖、小松美英子、竹内章、諸岡晴美、山田茂、龍世祥）と非常勤講師1人（竹内茂弥）と加藤扶久美が授業を担当した。

後学期は、「日本事情Ⅰ」のコーディネーターを濱田美和が担当し、学部教員6人（鈴木景二、隅敦、立川健治、鼓みどり、林夏生、二村文人）と非常勤講師4人（桂博子、三遊亭良楽、清水星栄、経澤菁汀）と濱田美和が授業を担当した。

「日本事情Ⅲ」は、出原節子がコーディネーターを担当し、学部教員8人（大熊敏之、神川康子、久保田真功、呉羽長、島添貴美子、鼓みどり、堀田裕弘、水内豊和）と非常勤講師1人（彼谷環）と出原節子が授業を担当した。

3.4 授業内容

以下のようなテーマで授業がなされた。

「日本事情Ⅰ」

桂 博子（非常勤講師）	「富山の民謡」
三遊亭良楽（非常勤講師）	「落語」
清水 星栄（非常勤講師）	「華道」
鈴木 景二（人文学部）	「富山の歴史と観光」
隅 敦（人間発達科学部）	「日本の手作りおもちゃと世界のつながり」
立川 健治（人文学部）	「日本人の身体所作」
鼓 みどり（人間発達科学部）	「日本の美術」
経澤 菁汀（非常勤講師）	「書道」
林 夏生（人文学部）	「日本社会と漫画・アニメ」
二村 文人（人文学部）	「日本の伝統芸能」
濱田 美和（留学生センター）	「情報収集・レポート作成」

「日本事情Ⅱ」

青地 正史（経済学部）	「高度経済成長期の日本人」
石原 外美（工学部）	「日本における最近の技術者倫理教育」
黒田 重靖（工学部）	「日本の化学と工業」
小松美英子（大学院理工学部研究部）	「日本に生息するマリンペスト」
竹内 章（理学部）	「日本の地殻変動と海底資源」
竹内 茂弥（非常勤講師）	「人間活動と環境問題」
諸岡 晴美（人間発達科学部）	「日本の繊維工業」
山田 茂（工学部）	「日本機械産業の歴史と今後の展望」

龍 世祥 (経済学部)	「環日本海地域における環境協力」
加藤扶久美 (留学生センター)	「異文化理解」「異文化体験発表」

「日本事情Ⅲ」

大熊 敏之 (芸術文化学部)	「日本の造型」
彼谷 環 (非常勤講師)	「日本の法律」
神川 康子 (人間発達科学部)	「日本の住まい・住宅事情」
久保田真功 (人間発達科学部)	「日本の教育事情」
呉羽 長 (人文学部)	「日本文学」
島添貴美子 (芸術文化学部)	「世界の音の文化／日本の音の文化」
鼓 みどり (人間発達科学部)	「日本の美術」
堀田 裕弘 (工学部)	「日本における情報通信事情」
水内 豊和 (人間発達科学部)	「日本の障害児教育」
出原 節子 (留学生センター)	「異文化コミュニケーション」

4 おわりに

五福キャンパスの教養教育においては、「日本語」の授業担当者は、留学生センター教員5人と学部留学生専門教育担当教員(人文, 経済, 工)3人の計8人と、同じく留学生教育の経験が豊富な非常勤講師1人であり、全員が留学生教育の経験が豊富で、日々留学生の指導に携わっている。入学して1年目の学部正規留学生を対象とした「日本語A」では、授業を通して生活上の指導・助言ができるように、また、2年生以上の留学生を対象とした「日本語B」では、学部の専門性を考慮したアドバイスができるように、担当教員が連携して、きめ細かい指導を行っている。

また、「日本事情」についても、センター専任教員3人がコーディネートして、学部留学生専門教育教員とも連携をしつつ、学部教員等との連絡・調整をしながら授業を進めている。